展示された農家自慢の山うどを見る参加者

白神トピックス

生産者自慢の白神山うどがずらり

山うど部会

収穫最盛期を迎えた山うどの出来を競う、第21回山うど共進会が２月19日に開かれ、桜田和浩さん（能代市二ツ井町・切石）が最優秀賞の全農秋田県本部長賞に選ばれました。

共進会には２Ｌが23点、３Ｌが10点の計33点が出展され、会場には生産者自慢の山うどがずらりと並びました。審査基準は「肌の色」、「石附やハカマがしっかりついているか」、「生長点の長さが揃っているか」などで、市場関係者が厳しく審査をし、消費者に選ばれる商品であるかどうかを重視しています。

今年度の山うどの生育について担当者は「今年度は芽数が多く、芽の大きさは小さい傾向にあったため、出荷されているものも例年より細物が多くなっているが、生産者の管理徹底により良質なものを収穫できている。今後は、日照時間が増えてくるので、ハウス内の温度管理を徹底し品質維持に努めてもらい、収穫の最後まで高品質な山うどの出荷を期待している」と話してくれました。

○最優秀賞：桜田　和浩さん（能代市二ツ井町・切　石）
○優 秀 賞：茂内美世子さん（能代市二ツ井町・鎌　谷）
　　畑山　悦雄さん（能代市二ツ井町・外　面）
○奨 励 賞：藤田　清美さん（能代市二ツ井町・悪　戸）
　　安保　伸広さん（藤　　里　　町・清水岱）

観光キャンペーンに貢献

ＪＡあきた白神

ＪＲ秋田支社（菊地正支社長）が昨年９月から11月に開いた「秋田県秋の大型観光キャンペーン」に貢献したとして、当ＪＡに感謝状が贈呈されました。

贈呈式には、同支社の菊地支社長ら４人が訪問。能代の「食」白神ねぎの農作業体験のオプショナルプラン商品化などに協力したとして、佐藤組合長に感謝状を手渡しました。佐藤組合長は「白神管内の農畜産物をＰＲするすばらしい機会をいただけた。今回、能代を訪れた方が、消費者として白神産を買い求めてくれるとありがたい。今後も協力していくので、このようなキャンペーンを行ってもらいたい」と話しました。

菊地支社長（左）から感謝状を受け取った佐藤組合長（右）

「生産の目安」などが説明された班長会議

目安に沿った作付けを求める

ＪＡあきた白神

平成31年度の農業政策を各地区の協同班長へ周知するため、２月15日に能代市文化会館と二ツ井町庁舎で農業協同班長会議が開催されました。

このうち能代地区の会議には、約70人の協同班長が出席し、東北農政局や市の担当者から生産の目安などについて説明を受けました。能代市の31年産米の生産の目安は、２万456ｔ、水稲作付率55.67%、転作率44.33%となりました。今後配布される生産者ごとの目安は、個々の水田台帳面積に作付け率を掛け合わせたものを基本とし、ＪＡに出荷する農家はＪＡの販売計画などを反映させた数字も示されます。